

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名：一般国道8号 糸魚川東バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北陸地方整備局	
起終点：自：新潟県糸魚川市間脇 至：新潟県糸魚川市押上	延長：6.9km		
事業概要 国道8号糸魚川東バイパスは、現在、同市梶屋敷～同市押上間(L=3.1km)の暫定2車線供用に向けて事業を実施しており、平成21年度、梶屋敷～大和川間の暫定2車線供用を予定している。			
平成元年度事業化	H2年度都市計画決定	H4年度用地着手	
全体事業費	360億円	事業進捗率：53%	
計画交通量	12,800～16,100台/日	供用済延長：0km	
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 1.2 (残事業) 3.3 総費用：(残事業)/(事業全体) 133/369億円 (事業費：112/348億円) (維持管理費：21/21億円)	総便益：(残事業)/(事業全体) 437/437億円 (走行時間短縮便益：372/372億円) (走行経費減少便益：56/56億円) (交通事故減少便益：10/10億円)	基準年：H20年度
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.0～3.6（交通量±10%） 事業期間変動：B/C=3.0～3.5（事業期間±20%） 事業費変動：B/C=3.0～3.6（事業費±10%）			
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道等の混雑時旅行速度の改善が期待） ・生活環境の改善・保全（要請限度を超えていた夜間騒音が環境基準値を満足することが見込まれる）			
関係する地方公共団体等の意見 糸魚川市をはじめとする上越地方の市町村の首長で構成される、『糸魚川国道8号整備促進期成同盟会』や糸魚川市長・市議会より、早期整備の要望を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 公共施設や工場が立地する中、朝・夕の通勤時に渋滞が発生している。平成15年度の再評価後に比べ事故が増加している（特に、間脇～梶屋敷間では3倍にも増加している）。糸魚川市の第二次救急医療施設が糸魚川総合病院のみとなり、地域医療に対する重要性が高まっている。また、沿道には、大和川土地区画整理事業（完了）があり、計画調整を相互に図りながら事業を進めてきた。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 梶屋敷～押上間の4車線計画区間(L=3.1km)のうち、梶屋敷～大和川間(L=1.8km)は、平成21年度の暫定2車線供用を目指し、改良・舗装工事を推している。大和川～押上間は平成20年代中頃の暫定2車線供用を目指し、事業を推進している。間脇～梶屋敷間については、調査・設計中。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 梶屋敷～大和川間については平成21年度に暫定2車線で供用予定。引き続き、平成20年代中頃の糸魚川～押上間の暫定2車線供用に向け、事業を推進。間脇～梶屋敷間の完成2車線供用は、引き続き平成30年代前半の完成を目標として事業を推進している。			
施設の構造や工法の変更等 道路計画は、梶屋敷交差点の立体交差を平面交差へ見直しを行い約20億円の縮減を図る。施工にあたっては、新技術、プレキャスト製品の積極的活用、再生材の活用等のコスト縮減を考慮した計画となっており、今後一層の建設コスト縮減に努める。			
対応方針	事業継続		
対応方針決定の理由	事業の効果並びに事業の実施状況を踏まえ、事業の継続が妥当である。		
事業概要図			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。